

氏名	西岡 久美子
学位の種類	博士(看護学)
報告番号	甲第 64 号
学位記番号	看博第 19 号
学位授与年月日	平成 28 年 9 月 26 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
論文題目	保存期慢性腎臓病患者のエンパワメントを支援する看護ケアに関する研究 Nursing Care for the Empowerment of Pre-Dialysis Patients with Chronic Kidney Disease
論文審査委員	主査 教授 中野 綾美(高知県立大学) 副査 教授 野嶋 佐由美(高知県立大学) 教授 長戸 和子(高知県立大学) 教授 藤田 佐和(高知県立大学)

## 論文内容の要旨

【目的】本研究では、医療機関における保存期慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease:以下 CKD とする)患者のエンパワメントを支援する看護ケアの状況を明らかにすることを目的とした。

【方法】2014 年 12 月～2016 年 1 月に中四国地方などを中心に便宜的サンプリング法で、腎疾患看護を行っている病院、個人ネットワークにより、本研究の趣旨を説明し、本研究に協力可能と回答頂いた 47 施設と個人 19 名に依頼し、承諾を得た 634 名に郵送した。質問紙は文献を中心にエンパワメントを支援する看護の質問項目を抽出し、『病いと共に生きる患者を支える』(40 項目)、『内在する力を促進する』(25 項目)、『家族の力を支える』(9 項目)、『専門職による支援を整える』(11 項目)を作成し記述統計を用いた。項目分析後、質問項目の妥当性の検討した 81 項目の(新)質問紙を用いてエンパワメント支援の実態を記述統計・推定統計を用いて分析した。エンパワメントを支援する看護ケアの得点と看護師の要因、環境要因の差を分析し、信頼係数クロンバック  $\alpha$ 、相関係数を求めた。

【用語の定義】エンパワメントを支援する看護ケアとは、「CKD 患者が内在する力を促進させるよう家族の力や病いと共に生きる患者を支えたり専門職による支援を整えること」とした。

【倫理的配慮】本研究は、高知県立大学研究倫理審査委員会からの承認を受けた上で研究を進めた。

【結果】調査用紙 634 部を配付し、344 名を有効回答者とした(回収率 67.1%、有効回答率 80.8%)。性別(女性 93.6%、男性 6.4%)、年齢(38.3±9.46 歳)、経験など先行研究と大きな差は認められなかった。学習支援や勉強会への参加の機会があると答えた者は約 90%であった。他職種連携があると答えた者は 82.1%であった。多く関わる病期は、末期 93.3%、保存期 63.7%であった。①因子分析(最尤法、バリマックス回転)の結果、新エンパワメント支援は『意思決定を支える』『療養生活の調整を支える』『情緒的に支える』『情報の活用を支える』『家族の力を支える』『専門職の支援を整える』の 6 因子 81 項目となった。②項目-カテゴリー間相関は  $r=0.332 - 0.894(p<0.01)$ で、カテゴリー間相関は  $r=0.659 - 0.834(p<0.01)$ であった。また、81

項目のクロンバック  $\alpha=0.99$ 、6 因子のクロンバック  $\alpha=0.90 - 0.98$  であった。③エンパワメントを支援する看護ケアの獲得率は、70%以上であった。各支援群の獲得率は、『情報の活用を支える(78.49%)』支援群、『情緒的に支える(78.06%)』支援群が多く実施されていた。『療養生活の調整を支える(64.56%)』支援群が最も少なかったが、因子寄与率は 10.19 であった。④経験年数による差は、『療養生活の調整を支える』支援群で認められ( $p<0.05$ )、腎疾患患者への看護経験年数 6 年以上は、6 年未満の者よりも新エンパワメント支援総合、『療養生活の調整を支える』支援群、『情報の活用を支える』支援群を多く実施していた( $p<0.05$ )。保存期に多く関わった経験がある者は、新エンパワメント支援総合、全てのエンパワメント支援群を多く実施していた( $p<0.05$ )。また、職場における学習支援や勉強会の機会がある者はエンパワメント支援を多く実施していた( $p<0.05$ )。施設規模 500 床以上や他職種連携の機会がある者は、新エンパワメント支援総合を多く実施していた( $p<0.05$ )。

【考察】今回のエンパワメント支援の実態と因子分析の結果から、保存期 CKD 患者のエンパワメントを支援する看護とは、「CKD 患者が自分なりに病いと付き合っていく力を支援することであり、その力の支援とは、患者自身の（意思決定・療養生活調整・情報の活用）力を高めること、力を失う（揺れ動く）状況を支える（情緒的支援）こと、周囲（家族や社会）を整えていくことである。」と再定義された。本研究結果から、『療養生活の調整を支える』支援群は、他の支援群よりも獲得率が 64.56%と低かった。この支援群は、因子分析で第 2 因子として抽出され、CKD 患者のエンパワメントを支援する看護ケアに寄与率が高い支援群であるにも関わらず、獲得率が低いことは、重要な課題である。保存期 CKD 患者の療養生活を整え QOL を高めることは看護の専門性であり、今後さらに『療養生活の調整を支える』支援群の実施を高めていくことが課題であり、看護師自身の学習や経験を加味した支援が有用であると考え。エンパワメントを支援する看護ケアの尺度(カテゴリー)との信頼性(項目-カテゴリー間相関、クロンバック  $\alpha$  による内的整合性)と内容妥当性が検証された。項目-カテゴリー間相関、項目-エンパワメント支援総合得点間相関から全体的に「エンパワメントを支援する看護ケア」を測定するまとまりのある質問紙である。また、他疾患との比較やモデル開発を考慮する場合、質問紙の項目を精選する必要性が示唆された。

## 審査結果の要旨

本研究は、慢性腎臓病の患者の生活を支援する看護方法を探求してきた西岡氏の長年のテーマに根ざしたものである。西岡氏は、保存期 CKD 患者が進行する疾患と共に生きていくために、患者自身が力を獲得していくことが重要であると考え、保存期慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease:以下 CKD とする)患者のエンパワメントを支援する看護ケアに焦点を当て、看護ケアの状況を明らかにすることを目的として本研究を行っている。医療機関において、保存期 CKD 患者のエンパワメントを支援する看護の状況を明らかにすることは、今後、保存期 CKD 患者への看護の質の向上を図る上で重要であり、保存期 CKD 患者の看護の発展に寄与することが可能となる大変意義のある研究である。

研究デザインは、関連探索研究であり、保存期 CKD 患者のエンパワメントを支援する看護ケアについて、『意思決定を支える』『療養生活の調整を支える』『情緒的に支える』『情報の活用を支える』『家族の力を支える』『専門職の支援を整える』の 6 支援群 81 項目からなる質問紙を

作成し、エンパワメントを支援する看護ケアの状況及び関連要因を明らかにしている。さらに、作成した質問紙の測定用具としての可能性についても検討を行っている。

データ収集は、便宜的サンプリング法により、中四国地方などを中心に 47 施設と個人 19 名に依頼し、承諾を得た 634 名に郵送し、344 名を有効回答としている(回収率 67.1%，有効回答率 80.8%)。

本研究により、看護師は、『情報の活用を支える』支援群、『情緒的に支える』支援群を多く実施していること、その一方で、因子分析により第 2 因子として抽出された『療養生活の調整を支える』支援群は、最も実施されていないことが明らかになっている。保存期の揺れ動く患者の心理を支援するために不可欠な『情報の活用を支える』支援群、『情緒的に支える』支援群は実施されているが、保存期 CKD 患者のエンパワメントを支援する看護ケアに寄与率が高い支援群であるにもかかわらず、『療養生活の調整を支える』支援群の実施率が低いことは重要な課題であることを明らかにしている。『療養生活の調整を支える』ことは看護の根幹に関わることであり、『療養生活の調整を支える』支援群の実施を高めていくことが課題であることを言及している。

本研究は、西岡氏の、保存期慢性腎臓病患者の病気と共に生きる体験を捉え、エンパワメントを支援する看護を探求する力、研究に向かう真摯な態度、探求心、丁寧な分析によるものである。

以上のことから、本審査委員会は、本論文は、研究への着眼点、研究への着実な取り組み、研究成果の独創性、論理的な論証、研究成果の有用性と実践への発展性から、慢性看護学発展への学術的価値があると結論づけ、博士（看護学）の学位授与に値する研究成果であることを認めた。